

元グラフィックデザイナー、

農の未来を描く

Midrist Vol.5

ちようしまちビオトープ・武田 裕司さん（石川県金沢市）



わたしの「+みどり」宣言！

私は、

農地を未来につなぐ！

プラスみどり計画
北陸のたへる・つくる・みどりと未来を



金沢市銚子町で野菜の有機栽培を行う武田裕司さん。
元々はグラフィックデザイナーとして金沢市内で農業とは関係のない広告制作の仕事に携わっていたが、「もう少し生活に近いところの仕事をしたい」との思いから、(株)金沢大地※に転職。
金沢大地では商品パッケージのデザイン制作や広報活動などを行っていたが、野菜部門のリーダーを任されたことがきっかけで有機農業の世界に踏み込むこととなった。

※石川県内で有機農業及び有機農産物の加工品販売を営む企業。

「畑での野菜作りが楽しくなってきた」と語る武田さん。
3年前に独立し、『ちようしまちビオトープ』の屋号で、年間で10種類以上の有機野菜を栽培している。

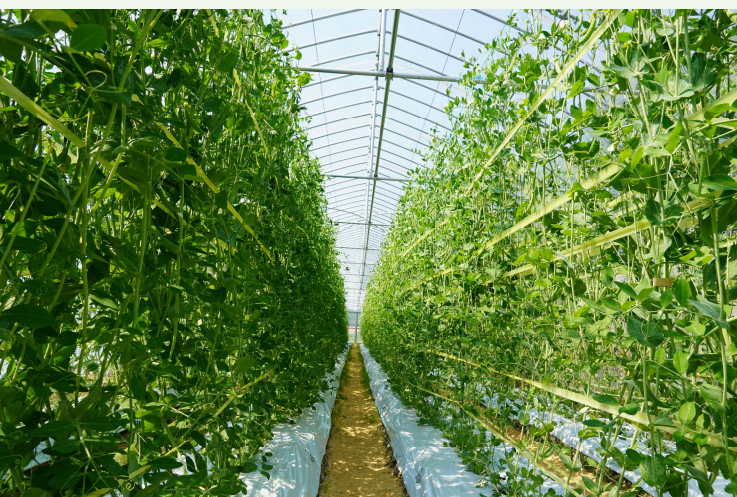
武田さんの作付計画は、作物収穫後、粉碎した残さをほ場にすき込み、その後、ほ場を一定期間寝かせないで、すぐに他作物を作付ける方法により年間を通じて出荷できるような体制をとっている。

取材当時の5月上旬には、スナップエンドウとリーフレタスの収穫の最盛期であったが、その他には、植え付け間もない、じゃがいも(きたあかり、メークイン)、中玉トマト、黒大豆(枝豆用)とともに、試験的に植え付けてみたというにんくが作付けされていた。

有機の取組については、「農業者である前にいち生活者としてオーガニックなどのエシカルな取組が好きなんです。自分が望む社会の在り方に、自ら貢献したいという気持ちで活動している」と語り、普段から高い問題意識を持って行動されている人だと感じた。

また、「金沢大地では有機栽培を行っていたので、有機栽培以外は知らないということもあるが、慣行栽培に比べて有機栽培が大変だとは感じていない。栽培した作物が虫害や病害で全滅することはないので、何とかやっていける。今後有機栽培を継続していくつもり。有機JAS認証を取得しようと思ったのは、有機JAS認証マークを添付して出荷できれば、新規就農者であっても取引先に対し、一定の信頼感は得られると考えたから」と語ってくれた。





屋号の『ちようしまちビオトープ』の名前の由来については、ほ場にカエルやヤゴなどのいろいろな生き物が生息していることや、生態系には自分や地域の人たちも含まれている中で、自分が農業を担うことによって、自分も地域も生き物たちもハッピーになれたらいいなという願いを込めてビオトープとし、また、この銚子町で農業を営むことから、この地域名を頭に付けた名前にしたということである。

屋号から武田さんが目指す農業への強い思いを感じ取ることができる。

農地については、金沢市農業委員会を通じて自宅から近く日当たりのよい農地を紹介されたことや、また、近くに金沢農業大学校を卒業し、就農後活躍されている農業者がいるという縁もあって、この場所を借りることになったと話してくれた。

「農地を農地として継承していくことは、有機栽培であろが慣行栽培であろがすごく大事なことなんだ」と訴える。

この地域は、昔は水田地帯であったが、現在は、生産組合の中に米を作る農業者は一人もいないため、一部で耕作放棄地も見られる。そんな中で農業を始めたので、地主さんからはすごく喜ばれ、地域の方々が応援してくれているのがうれしいと感謝の言葉を口にされた。

今後、有機農業に取り組みたい方へのメッセージを伺ったところ、「仲間が増えてみんなで栽培技術や経営ノウハウなど共有していけるとすごくうれしいし、自分のモチベーションも上がるので、是非、取り組んでもらいたい」と語ってくれたが、その一方で、「有機栽培のほ場は雑草だらけと言われるのが嫌なので、地域から預かっている大切な農地であることを自覚し、管理を怠ることににより有機農業のイメージを落とすようなことは絶対にしないでほしい」と注文を付けることも忘れてはいない。

この後、武田さんから、「一般消費者は有機を安心・安全の観点でしか見ていないことが気になっており、自然循環機能の役割を果たし環境にやさしい取組でもあることを行政側からしっかりPRしてもらいたい」とお願いがあった。

「資源が少ない日本で、化学農薬や化学肥料がどうやって製造されているのか、今後も安定的に製造していけるのかなど、将来に向けた持続的な議論が少しでも盛り上がってくればいいなと思っています」と語ってくれた。

この指摘は、消費者側に向けられたものではあるが、国民一人一人の意識改革が求められることから、時間はかかるだろうが、我々行政側が中心となり、川上・川下側と協力し、あらゆる機会を通じて一般消費者の理解を得られるよう働きかけていかなければならない。



最後に、今後の将来の展望について伺うと、「当面は自分一人で運営していくつもり。今年4月には地域の耕作放棄地を再生し、ほ場を増やした。3年間の実績から売れる品目や売れる時期が見えてきたので、労力とのバランスも見極めながら年々作付計画を改善しているところ」と語ってくれた。

武田さんに「+みどり宣言」をお願いしたところ、「農地を未来につなぐ!」と書いてくれた。地域の農業仲間と共に、農地をしっかりと次世代に継承していくぞという強い意志を感じた。

まだ独立して4年目の新参者と笑うが、大いなるビジョンを持って意欲的に有機農業に取り組む武田さんの今後の活動に期待していきたい。

なお、武田さんが生産した有機農産物は、金沢市内の直売所である『ほがらか村』や金沢駅2階の『Aガイヤ』で販売されている。

農産物の包装に『ちようしまちビオトープ』のシールを貼り、POPも活用しておいしい食べ方も紹介しているので、近くに足を運ばれた際は、是非立ち寄ってもらいたい。

DATA【ちようしまちビオトープ】

場主: 武田 裕司

農法: 有機

品目: ミディトマト、ミニトマト、リーフレタス、
ねぎ、スナップえんどう、じゃがいも、
えだまめ、にんじん、春菊、ほうれん草、
かぶ 等 (令和7年6月時点)



Instagram:
@choushimachi_biotope



CHOUSHIMACHI_BIOTOPE



Writer: 長田